



立教大学 平和・コミュニティ研究機構

Rikkyo Institute for Peace and Community Studies

平和・コミュニティ研究にむけて

立教大学平和・コミュニティ研究機構は、従来の平和研究の視野をより拡大し、安全・公正・人権の原理に立つ持続的コミュニティのあり方を探求しつつ、「平和」の条件を研究するセンターとして2004年3月に設立されました。グローバル化の更なる深化とともに、世界はより相互依存、統合の度合いを高めていますが、その一方で、日常的な場から国際関係に至るまで不安定さが増し、相互理解に亀裂が入っているとも思える現実があります。

本研究機構は、人びとの心情、日常の生活空間、そして様々な国際関係が繰り広げられる国際機構や非政府組織といった様々なレベルの現実を目に向け、いわば「多層・多次元のコミュニティ」における平和の構築を目指し、研究活動に取り組みます。



多層、多次元のコミュニティの創生

「平和」とはつねに人類の希求してやまない課題ですが、半世紀にわたる冷戦の終焉がいわれる現在も、世界は平和への新たな挑戦に直面しており、その認識と対応が緊急の課題となっています。私たちは身近な地域レベルから地球レベルに至るまで多層的に形成された「コミュニティ」において活動し生活しています。これらのコミュニティには伝統的・閉鎖的なものもありますが、市民社会を支える共生的、開放的なコミュニティも存在し、それらは相互に影響を及ぼし合い、そのダイナミズムがしばしば世界を動かしています。その重要性を踏まえ、より平等、公正、かつ開かれた多層的コミュニティを形成していくことが、持続的な真の平和の構築につながるのではないのでしょうか。

これら多層的コミュニティは、政治、安全保障、経済、社会、福祉、歴史、文化などの諸レベルを有し、それらの充足の実現と相互的作用が、平和の条件をなしていると私たちは考えます。コミュニティのそのような構造とダイナミズムを分析、理解し、平和の条件を探求するために、本研究機構は本学の全学的な協力の下、また学外、海外の研究者との連携の下、学際的な共同研究を展開します。そして平和実現のための政策を探り、提言することを目指しています。研究課題の重点として、世界を見据えつつ、これまで本学として実績のあるアジア社会の研究に基づきながら、「アジアにおけるトランスナショナル・コミュニティの形成と平和の構築」を追究していきます。

また研究とともに、大学院教育をも担い、平和・コミュニティ研究における若手研究者の育成、支援にもあたります。本学の建学の理念である「平和の叡智」を磨き、その成果を生み出すためにも、本研究機構はこの研究・教育に全力をあげて取り組んでいきます。

研究主要テーマ

都市の再編と再開発

平和・コミュニティ
研究機構

人の移動

戦争の記憶
と和解

* 2011年度は、東日本大震災及び原発問題に関連した活動に集中的に取り組んでいます。

運営委員

- 五十嵐 暁郎 (法学部 教授)
- 石坂 浩一 (異文化コミュニケーション学部 准教授)
- 市川 誠 (文学部 准教授)
- 大橋 健一 (観光学部 教授)
- 小川 有美 (法学部 教授)
- マーク・カプリオ (異文化コミュニケーション学部 教授)
- 栗田 和明 (文学部 教授)
- 小長井 賀與 (コミュニティ福祉学部 准教授)
- 庄司 洋子 (21世紀社会デザイン研究科 特任教授)
- 竹中 千春 (法学部 教授)
- 田島 夏与 (経済学部 准教授)
- アンドリュー・デウィット (経済学部 教授)
- 杜 国慶 (観光学部 教授)
- 萩原 なつ子 (21世紀社会デザイン研究科 教授)
- 林 みどり (文学部 教授)
- 黄 盛彬 (社会学部 教授)
- 西山 志保 (社会学部 准教授)
- 水上 徹男 (社会学部 教授)
- 李 香鎮 (異文化コミュニケーション学部 教授)

研究員

- 伊藤 道雄 (21世紀社会デザイン研究科 特任教授)
- 金 兌恩 (京都大学 非常勤講師)
- 佐久間 孝正 (東京女子大学 名誉教授)
- 佐々木 寛 (新潟国際情報大学 教授)
- 高原 明生 (東京大学大学院 教授)
- 田中 治彦 (上智大学 教授)
- 林 倬史 (国士舘大学 教授)
- 福山 清蔵 (コミュニティ福祉学部 教授)
- 藤林 泰 (埼玉大学 教授)
- 浪岡 新太郎 (明治学院大学 准教授)
- 松本 康 (社会学部 教授)
- 李 鐘元 (法学部 教授)

外部評価委員

- 上村 英明 (恵泉女学園大学 教授)
- 勝俣 誠 (明治学院大学 教授)
- リサーチアシスタント
- 今井 祥子 (文学研究科修了)
- 武 玉江 (法学研究科在籍)
- 前川 志津 (社会学研究科在籍)

研究成果

平和・コミュニティ叢書(明石書店)



平和・コミュニティ研究(唯学書房)



活動紹介

セミナー、フォーラム、講演会、国際シンポジウム

2011年度は、東日本大震災の問題に関連した活動を展開しています。

前期は、原発問題に集中した連続講演会を開催し(下記)、たくさんの方にご参加いただきました。

連続講演会「原発社会に未来はあるか？」

- 第1回講演会「原発という選択のあやうさー福島第一原発事故とその背景ー」
講演：菅井 益郎氏(國學院大學 経済学部 教授)
- 緊急講演会「ドイツは脱原発に舵を切ったー“Fukushima”のインパクトー」
講演：ミランダ・シュラーズ氏(ドイツ政府原子力・再生エネルギー政策諮問委員)
- 第2回講演会「原子力発電と地方自治」
講演：佐藤 栄佐久氏(前福島県知事)
- 第3回講演会「原発なしでも大丈夫ですか？ーエネルギー基本計画の失敗と転換の必要性ー」
講演：アンドリュー・デウィット氏(立教大学 経済学部 教授)
- 第4回講演会「原発事故後を考える集いーなぜパニックは起きたのか(起きていないのか)ー」
基調講演：黄 盛彬氏(立教大学 社会学部 教授)



大学院教育

2005年度より「平和・コミュニティ研究機構科目」を展開しています。専門性と広い視野及び社会の現実への関心を養い、国際関係、人の安全保障、持続的開発、市民社会的協力、移動と多文化共生などといった研究テーマを相互関連的に学ぶ方途を大学院生に提供するもので、2011年度は、文学、経済学、法学、コミュニティ福祉学、21世紀社会デザインの5つの研究科にわたり開設しています。この教育プログラムにおいて、研究科を越えて学際的に学ぶことによって、グローバルな視野を持ち、ローカルまたは地域が置かれている現実に関わり、そして家族や男女の関係に代表される親密圏に露呈されている問題性を探求できる、いわば総合的かつ問題解決を目指す知識の創造にとともに取り組んでいます。

◆ 立教大学 平和・コミュニティ研究機構 Rikkyo Institute for Peace and Community Studies

代表 ▶ 黄 盛彬 [Seongbin Hwang] (社会学部 メディア社会学科 教授)

お問合せ ▶ 平和・コミュニティ研究機構
TEL:03-3985-4275 E-mail:peace@grp.rikkyo.ne.jp
ホームページ <http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/IPCS/>

リサーチ・イニシアティブセンター
TEL:03-3985-4608 FAX:03-3985-2458 E-mail:research-koho@rikkyo.ac.jp
ホームページ <http://www.rikkyo.ac.jp/research/initiative/>

掲載されている情報は2011年11月現在のものです。無断転載を禁じます。